

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和6年度 高岡工芸高等学校アクションプラン		- 1 -		
重点項目	学習活動			
重点課題	基礎学力の定着とタブレットの有効活用に向けた教員研修会の実施			
現 状	<p>・中学校の方針で、課題(宿題など)を出さない中学校が増えてきている。そのため、塾へ通っている生徒は塾で学習するが、それ以外の生徒は学校以外では学習せず、家庭学習をしないことが当たり前と考えている生徒がいるという現状が分かってきた。基礎力診断テストのアンケートでは、家庭学習の時間が0分と回答する生徒が増えてきている。本校での学習内容を定着させるために、家庭学習の習慣を付けさせることが、今後の大きな課題である。さらに、生徒に自ら学習計画を立てて粘り強く実行し、自身の学習を評価(チェック・分析)し、次の学習に生かすことができる(改善)調整力を身に付けさせることも求められる。</p> <p>・ICTの活用が進み、生徒に1人1台タブレットを貸与され、授業の展開も変わってきた。しかし、教員によってはうまく活用できていないと悩んでいる方もいる。教員間でアイデアを出し合ったり、専門家から学んだりする機会が必要である。</p>			
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析	教員研修の実施		
	<p>・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。結果を振り返る時間をつくり、今後の学習計画につなげる</p> <p>・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。</p>	<p>・タブレットの有効な利活用や評価について学ぶ教員研修会を3回以上開催する。</p>		
方 策	<p>・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定着観測を行い、小さな目標を増やすことで、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>・朝学習を校時に組み込み、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。</p> <p>・D3(Dゾーン中最低評価)だった生徒に対して個別指導を行う。</p>	<p>・Microsoftのformsやjamboard等に変わるソフトを紹介し、その使い方を学ぶ研修会を開催する。</p> <p>・Googleclassroomを活用した授業の取組等を紹介するなど、情報共有する研修会を開催する。</p> <p>・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。</p>		
達 成 度	<p>・D3の補習を行い、参加した生徒は学び直しの良い機会となった。また、積極的に質問するなど学習に対する意欲の向上にもつながる補習を実施できた。</p> <p>・第2回基礎力診断テストの結果(Dゾーンの生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●1年生 78名/244名(32.0%)</li><li>●2年生 98名/254名(38.5%)</li></ul>	<p>・外部講師によるICT研修会1回実施、教育情報部による研修会1回実施、計3回の研修会を実施することができた。</p> <p>・互見授業習慣を2回行い、34回の授業見学が実施された。また、他校の学校訪問の公開授業にも多く参加し、多くの情報を得ることができた。</p>		
具体的な取組状況	<p>・1年生には合格者説明会の際、5月に基礎力診断テストの説明やオリエンテーションを実施し、テストに向けての準備の仕方や結果の活用方法を周知した。</p> <p>・数学でD3だった生徒に対して2日間、マンツーマンの補習を行った。</p>	<p>・ICT支援員によるICT講習会を開催した。jamboard等に変わるソフトを紹介していただき、その使い方を学ぶ研修会を行った。また、Googleclassroomを活用した会議の運営方法、授業の活用方法等の研修会を行い、3回とも活気ある研修会となった。</p>		
評 価	C	<p>・昨年度D3補習に参加した生徒の9割は、今年度補習には参加していなかった。新たなメンバーが補習の対象となっていた。補習後は、どの生徒も達成感や成功体験ができたためか、良い表情になっていた。しかし、Dゾーンの生徒の割合は、35.3%と目標の30%以下とはならなかった。</p>	A	<p>・使用時期、活用時期にも配慮し、研修を行ったことで、より実践的な研修を行うことができた。</p> <p>・多くの先生方がICTを上手に活用して授業を行っていた。そのノウハウ等を共有することができた。</p>
学校関係者の意見	<p>・来年度から始まるタブレットの家庭負担について、今後何か対策(支援)はあるのか。また、全員準備できるのか不安である。</p> <p>・タブレットを積極的に授業でも活用し、ある程度活用できる能力を身に付けた生徒を社会へ送り出して欲しい。</p>			
次年度へ向けての課題	<p>・来年度よりタブレット端末が保護者負担となり、入学後すぐの活用ができなくなる。それに対応したICTの活用方法を検討する必要がある。</p> <p>・基礎力診断テストを活用した事前学習、事後学習を行う予定でいたが、タブレット端末の運用状況により対策不足や遅れが出ないように、事前に準備を行っていきたい。</p>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活		
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSは、スマートフォンの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如による事件や事故、いじめに発展するなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にSNSで写真や動画を挙げてしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。スマートフォン使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。</li> <li>・交通事故件数は、昨年度は9件発生した。登校時に自動車と接触する事故が最も多い。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からない。また、加害者になるとも限らない。命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。また、努力義務ではあるがヘルメットの着用について自分の身を守る認識を高める必要がある。</li> </ul>		
達成目標	SNS上の指導件数の減少		登下校時の交通事故件数の減少
	・年間報告件数 5件以下		・発生件数 5件以下
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会毎にSNSに関する指導、情報提供</li> <li>・「心」の教育、モラルとマナーの指導</li> <li>・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施</li> <li>・校風安全委員による対策等検討会の実施</li> <li>・個別指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各集会毎に交通安全指導</li> <li>・自転車点検による安全意識の向上</li> <li>・事故発生時の状況や場所の教室掲示</li> <li>・校風安全委員による対策等検討会の実施</li> <li>・交通安全教室の実施(1年生)</li> <li>・個別指導</li> </ul>
達 成 度	・報告件数2件(1月末日現在)		・事故件数4件(1月末日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション)</li> <li>・始業式、終業式での注意喚起</li> <li>・ST時での情報提供</li> <li>・個別指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション)</li> <li>・始業式、終業式での注意喚起</li> <li>・自転車カギかけ運動(5月)</li> <li>・自転車点検による安全意識の向上(5月)</li> <li>・交通安全教室の実施(1年生 5月)</li> <li>・ST時での情報提供</li> <li>・校風安全委員会での事故の原因と対策検討、教室での呼びかけ</li> <li>・個別指導</li> </ul>
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットパトロール報告件数は1件であった。</li> <li>・SNS関係の事案が1件あった。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車対自動車4件となっていて昨年度より事故数は減少しており、目標を達成している。通学中の出会い頭の事故が多い。大きな事故には至ってはいないが継続的な指導を行う必要がある。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導は社会に出てから必要となることばかりで、目標を厳しく設定してはどうか。</li> <li>・スマートフォンの活用について、リスクヘッジは大切であるが、使用を遠ざけ過ぎると逆に使用したくなるのではないかと。</li> <li>・スマートフォンについては、ある程度の規制は必要なのは理解できる。しかし、必要に応じて使用するなど、スマートフォンの使い方(付き合い方)の指導をお願いしたい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSの利用の方法やマナーについて注意喚起を行う。</li> <li>・交通安全については新入生に対してはオリエンテーション、交通安全教室を通してしっかりした知識をつけることや情報提供をして注意喚起を行う。</li> <li>・自転車通学生についてはヘルメット着用を推奨する。</li> <li>・学期末に注意喚起を行い、学年集会や個別指導など様々な対策を行っていく。</li> <li>・PTA、生徒会と必要に応じて連携を取りながら、自分のことだと捉えることができるよう取組を行っていきたい。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 高岡工芸高等学校アクションプラン

重点項目	進路支援			
重点課題	よりよい勤労観・職業観を身に付けさせ、主体的に進路を選択し決定できる力を育む。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたい企業や進学情報をインターネットで調べて、不足があれば進路指導室にきて就職や進学に関する資料を探しにきている。また、就職や進学の受験報告書をタブレットの進路指導室に掲載しており、必要なときにいつでも閲覧できる状態としてある。進路の選択においてもっと進路指導室にきて相談する、閲覧をして情報を確実に把握していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約120名が民間企業への就職を希望している。</li> <li>・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、令和5年度:1人、令和4年度:2人、令和3年度:8人、令和2年度:0人、令和元年度:3人、平成30年度:4人であった。</li> </ul>		
達成目標	3学年生徒の進路指導室利用回数、タブレット閲覧回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)		
	1000回以上(一人平均3.9回以上)	2人以内		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかやタブレットでの調べ方などの説明を行う。</li> <li>・進路希望先の決定において迷いがある場合には、進路指導室に相談に来るように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企業が求める人物や適性などの情報を確実に生徒に伝え、意識の向上を図る。</li> <li>・適性検査を実施し、その結果より本人の適性、能力について考えさせ、進路選択に生かす。</li> <li>・面接時に本人の長所や考えを確実に伝えられるように指導する。</li> <li>・多くの先生方から面接指導が受けられるように指導計画を立てる。</li> </ul>		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導室(タブレット利用含む)延べ利用回数</li> <li>＜就職者＞</li> <li>進路指導室 794回(内 タブレット利用686回)</li> <li>＜進学者＞</li> <li>進路指導室 547回(内 タブレット利用475回)</li> <li>合計 1341回(134%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業に116名就職選考試験を受け、一次選考で113名合格。</li> <li>3名不合格。</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。</li> <li>・平日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。</li> <li>・生徒一人一人にタブレットが支給されており、情報が検索しやすくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次選考での不合格者数が3名となり、目標人数2人を超えた。</li> <li>比較的、小規模な会社の大工職人、美容師などで長い期間をかけて育てるより、即戦力が求められる職種であったことから、不合格となった。</li> </ul>		
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は進路の選択にあたり、タブレット使用により、タイムリーに進路情報を得ている。また必要に応じて進路指導室を訪問し、担当者と相談をしたり、進路情報の提供を受けている。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次選考での不合格者数が3名となり、目標人数2人を超えた。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の離職率を把握して進路指導に活かして欲しい。</li> <li>・離職率を減らすために、生徒と企業とのマッチングを強化する取組ができればよい。</li> <li>・一次選考不合格者についての評価が厳しいと感じる。特に工業以外の分野で一次試験不合格となるのは、仕方ないと感じる。</li> <li>・生徒に高岡工芸高校のブランド力を様々な形で伝えて欲しい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標を設定するために、早期に必要な資料を収集し、時間をかけて検討するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスや企業説明会を通して早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取組み、指導を強化する。</li> <li>・2学年における企業説明会への積極的な参加を促す。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動		
重点課題	学校行事及び部活動の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、各行事において生徒の主体性を伸ばし、更なる活性化を目指すことが重要となってくる。生徒議회를充実させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。</li> <li>・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率は89%（生徒会を含む）となっている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は43名（内36名が部変更）であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</li> </ul>		
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動加入率（生徒会含む）	
	85%以上	85%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査するとともに、次年度の活動に生かす。</li> <li>・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</li> <li>・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程及び成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</li> <li>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</li> </ul>		
達成度	満足(A)＋ほぼ満足(B)で評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会 A63.1%+B34.5%=97.6% (昨年度比+2.5%)</li> <li>・尚美展 A58.6%+B37.5%=96.1% (昨年度比-1.8%)</li> <li>・球技大会 A32.1%+B59.3%=91.4% (昨年度比-3.1%)</li> </ul>	部活動加入率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化部56.0%＋運動部41.9%=97.9%</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の内容は、生徒会執行部が内容を精選し、計画を作成した。</li> <li>・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会日程や入賞者一覧を校内掲示。各部によるHPへの掲載。</li> <li>・desknetsのインフォメーションにて大会成績の報告。</li> <li>・退部した生徒の状況を把握し、他の部活動への入部を促す。</li> </ul>	
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の満足度97.6%（昨年度比+2.5%） 生徒の安全面に配慮し、過去と同様な形での運動会となった。応援合戦も例年以上の盛り上がりを見せ、満足度の高い運動会となった。</li> <li>・尚美展の満足度96.1%（昨年度比-1.8%） 各部による模擬店の数が増加したこともあり、盛り上がりのある尚美展となった。各学科で企画したものづくり体験型イベントや模擬店が大盛況で、生徒たちの満足度を例年通り維持した。</li> <li>・球技大会の満足度91.4%（昨年度比-3.1%） 生徒会執行部が内容を精選し、競技種目を決めて実施した。例年通りの満足度を維持した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の部活動加入率は高い。</li> <li>・今年度は37名の生徒が退部し、うち11名が新たな部活動に入部した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校での部活動離れや地域移行が進み、高校での部活動が維持されるのか。また、現状のように全国大会へ出場できるか心配である。</li> <li>・部活動は生徒の人生に大きな影響を与える。生徒や教師の負担を軽減しながら部活動を継続する取組が必要である。</li> <li>・特別活動は高岡工芸高校の大きな魅力の一つである。今後も生徒主体の行事を続けて欲しい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。</li> <li>・職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。</li> <li>・生徒の意見をできるだけ反映し、各行事でよりわかりやすく生徒の主体的な活動体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。</li> <li>・退部者の確認とその後の学校生活の充実に図るための面談を充実させる。</li> <li>・女子運動部の活性化。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化			
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。</li> <li>・会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催している。</li> <li>・各委員長、副委員長が中心となり委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。</li> <li>・令和4年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を図っている。</li> </ul>			
達成目標	PTA行事への参加者数(総会除く)	総会の出席者数		
	前年度より10%増 (R5年度参加者数:28名)	前年度より10%増 (R5年度出席者数:108名)		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページにPTAページを開設する</li> <li>・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく</li> <li>・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく</li> <li>・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う</li> <li>・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める</li> </ul>			
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度参加者:37名</li> <li>前年度より約30%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度参加者:118名</li> <li>前年度より約10%増</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやか運動(生徒指導委員会)</li> <li>・運動会広報活動(文化・広報委員会)</li> <li>・尚美展 売店・食堂(執行部)</li> <li>・PTA通信発行(文化・広報委員会)</li> <li>2回(デジタル化 ホームページ掲載)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日総会開催</li> </ul>		
評 価	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尚美展において、新しい取り組みを企画され、参加者の増加</li> <li>・PTA通信はデジタル化され、経費削減や委員の負担軽減が図られている</li> </ul>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側の対策は難しい</li> <li>・各保護者の意識</li> </ul>		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動がアクションプランとして取り上げられることは素晴らしい。</li> <li>・保護者が生徒を応援する活動がもっとできればよい。</li> <li>・案内プリントなど、生徒が学校からもらってくるものが保護者に届かないことが多い。データ化してホームページに掲載するなど、もっと保護者と学校を繋げるツールがあればよい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな事業展開の検討</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)